

## 人間社会環境研究科 国際学専攻

### 【授与する学位】修士（国際学）

| 大学（大学院）の目的  |
|---|
| 金沢大学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。<br>博士課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。 |

| 学類（研究科）の教育研究上の目的   |
|--|
| 人間社会環境研究科は、人間社会環境における諸問題に関して高度な教育研究を行い、この領域における国際水準の教育研究拠点として、現代的課題に対応できる独創性豊かな知の人材を養成することを目的とする。<br>博士前期課程は、博士後期課程の基礎となる専門的な教育研究を行い、独創性豊かな大学教員及び研究者を目指す者を育成するとともに、専門の実務能力を備えた高度専門職業人並びに深い知識と学際的な興味を持って企業・自治体、地域社会等に貢献する人材を養成することを目的とする。<br>国際学専攻は、国際学領域において博士後期課程の基礎となる専門的な教育研究を行い、独創性豊かな大学教員及び研究者を目指す者を育成するとともに、専門の実務能力を備えた高度専門職業人を養成することを目的とする。 |

| ディプロマ・ポリシー（DP）  | カリキュラム・ポリシー（CP）  | アドミッション・ポリシー（AP）   |
|---|--|--|
| <b>【修了認定・学位授与に関する基本的考え方（前文）】</b><br>社会のグローバル化が進む中で、実践的な外国語運用能力をもち、国際社会の諸問題や異文化への強い関心と専門知識を備えて国際社会で活躍できる人材、日本語による豊かなコミュニケーション能力をもち、日本語・日本文化とその教授法に関する専門知識を備えて国際社会で活躍できる日本語教師等の人材を育成することが社会から期待されている。<br>そうした人材を育成するために、本学人間社会環境研究科国際学専攻では、所定の課程を修め、必要な単位を修得し、かつ研究指導を受けた上で、修士論文（デジタル国際コースはリサーチペーパーも可）の審査又は博士論文研究基礎力審査（QE）に合格し、次のような目標を達成した者に、修士（国際学）の学位を授与する。<br>また、データプライバシー・エキスパート養成プログラムにより、諸課題解決のための専門的な技術ならびに知識をあわせて身につけた者には、修士（国際学）の学位を授与する。  | <b>【教育課程編成に関する基本的考え方】</b><br>本研究科国際学専攻では、ディプロマ・ポリシーで掲げた人材育成目標を達成するために、大学院GS基盤科目（必修2単位、選択必修2単位）を配置して研究活動を行うための基礎を身に付けさせるとともに、研究科共通科目（必修6単位）「論文指導Ⅰ1-Ⅱ4」において、研究の遂行と学術論文の執筆に関するきめ細かな指導を行う。<br>また、データを調査・分析する技術を学ぶプログラムを提供し、今日の社会ニーズに対応できる高度人材を育成するため、国際学専攻内にデータプライバシー・エキスパート養成プログラムによる「デジタル国際コース」をあわせて設置する。  | <b>【入学者受入れに関する基本的考え方（前文）】</b><br>国際関係・地域研究コースでは、外国語コミュニケーション能力をいっそう高めながら、グローバルな視野から人間と社会についての普遍的な真実を探究するとともに、激変する複雑な社会状況の下で諸国民が直面する多様な問題の解決策を考察するカリキュラムにより、国際関係業務において貢献しうる人材を養成する教育を行う。<br>日本語教育・日本文化研究コースでは、英語を中心とした外国語コミュニケーション能力をいっそう高めるとともに、すでに身に付けた日本語、日本語教育、日本文化等に関する知識と教授能力をより高度化するカリキュラムを提供する。それにより、高度職業人として外国人のための日本語教育に貢献しうる人材、また国際交流分野で活躍する人材を養成する教育を行う。<br>また、国際学専攻「デジタル国際コース」のデータプライバシー・エキスパート養成プログラムにおいては、社会の諸課題に向き合い、今日の研究技術を学ぶことで課題解決に挑戦する意欲をもち、そのための基礎的学力を備えた学生を求める。  |
| <b>【学生が身に付けるべき資質・能力】</b><br>国際関係・地域研究コース<br>（1）外国語の運用能力をみがくとともに、国際政治経済、比較政治、海外各地域の社会・文化等の専門知識を深め、調査研究能力や論説能力を高めて国際関係業務に就ける能力<br>（2）博士後期課程に進んで研究者を目指すことのできる能力<br>日本語教育・日本文化研究コース<br>（1）国際社会についての見識と外国語運用能力をみがき、日本語や日本文化に関する専門知識を深め、調査研究能力を高めて国際関係業務に就ける能力<br>（2）高度職業人として国内外で外国人のための日本語教師として活躍できる能力<br>（3）博士後期課程に進んで研究者を目指すことのできる能力<br>デジタル国際コース<br>国際関係・地域研究コースまたは日本語教育・日本文化研究コースの専門分野の能力とあわせて、以下の4つの能力を身につける。<br>（1）調査におけるデータ収集のプロセス全体を管理できる能力<br>（2）法と関連づけて技術的なデータの匿名性概念を理解できる能力<br>（3）データの特性や利用目的に応じて最適な匿名化を実施できる能力<br>（4）それぞれの専門分野の問題意識に基づき、マイクロデータの分析を実践できる能力 | <b>【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】</b><br>1. 教育内容<br>国際関係・地域研究コース<br>（1）外国語コミュニケーション能力をいっそう高めながら、グローバルな視野から人間と社会についての普遍的な真実を探究することに主眼を置く。<br>（2）激変する複雑な社会状況の下で人々が直面する多様な問題の解決策を考察するカリキュラムを配置する。<br>日本語教育・日本文化研究コース<br>（1）英語を中心とした外国語コミュニケーション能力をいっそう高めるとともに、すでに身に付けた日本語、日本語教育、日本文化等に関する知識と教授能力をより高度化することに主眼を置く。<br>（2）国際関係・地域研究コースの推奨科目を配置する。<br>デジタル国際コース<br>国際関係・地域研究コースまたは日本語教育・日本文化研究コースの専門分野の知識を学びながら、マイクロデータ処理を学ぶ。<br>2. 教育方法<br>3コースとも、アクティブラーニングの手法を積極的に取り入れ、さらに専攻内科目だけでなく、他専攻科目の履修を推奨し、学際的・総合的視点と能力を持った人材の養成を目指す。 | <b>【求める人材】</b><br>本研究科国際学専攻は国際関係・地域研究コースと日本語教育・日本文化研究コースの2コースを設置し、外国語コミュニケーション能力をいっそう高めながら、国際社会の諸問題や異文化への強い関心と、実践的な外国語の運用能力を有する人を求めている。<br>国際社会・地域研究コースでは、国際政治経済、各地域の文化や歴史等の専門知識の習得を志す人を求める。<br>日本語教育・日本文化研究コースでは、日本語による豊かなコミュニケーション能力を有し、日本語、日本文化およびその教授法に関する基本的知識を備えている人を求める。日本語教師経験を有する社会人や外国人留学生も積極的に受け入れる。<br>また、「デジタル国際コース」のデータプライバシー・エキスパート養成プログラムにおいては、上記に2コースのいずれかの素養にあわせて、社会の諸課題に向き合い、今日の研究技術を学ぶことで課題解決に挑戦する意欲をもち、そのための基礎的学力を備えた学生を求める。  |
| <b>【学修成果の評価】</b><br>（1）授業科目に対して成績評価の基準及び方法を明示し、それに基づいて、学修成果を評価する。<br>（2）修士論文、リサーチペーパー又は博士論文研究基礎力審査（QE）に対して審査基準と審査方法を明示し、それに基づき研究成果の審査及び試験を行う。   | <b>【選抜の基本方針】</b><br>さまざまな経歴・志向を持った学生を受け入れるために、一般選抜、社会人特別選抜および外国人留学生特別選抜、学内推薦特別選抜、海外在住者を対象とした遠隔特別選抜と、多様な選抜方法を実施します。   | <b>【入学までに身に付けて欲しい教科・科目等】</b><br>論文執筆のための文献検索や資料収集のための基礎的能力を必要とするとともに、学部での卒業論文執筆経験を基礎とした論文執筆のための基礎学力を必要とします。<br>国際関係・地域研究コースでは、さらに以下のような基礎学力を必要とします。<br>・学部レベルの勉学・研究により他民族・異文化の理解のための探求、実地体験をし、国際社会の諸問題について批判に耐える見解を有している。<br>・国際関係業務について貢献しうる知識・能力を有している。<br>・外国人と十分な意思疎通ができる実践的な外国語の運用能力を有している。<br>日本語教育・日本文化研究コースでは、さらに以下のような基礎学力を必要とします。<br>・日本語学、日本語教育学、あるいは日本文化学の基礎的な知識を有している。<br>・日本語教育分野では、日本語教授法の知識と基本的な運用力を有している。<br>・当コースの勉学に必要なレベルの英語力を有するとともに、外国人留学生については、日本語能力試験NI（旧1級）合格レベルの日本語力を有している。<br>デジタル国際コースでは、統計調査士資格を取得済みであること、又は社会調査士の資格認定科目を履修し、社会調査士（キャンディディット）を取得済みであることを前提とします。 |